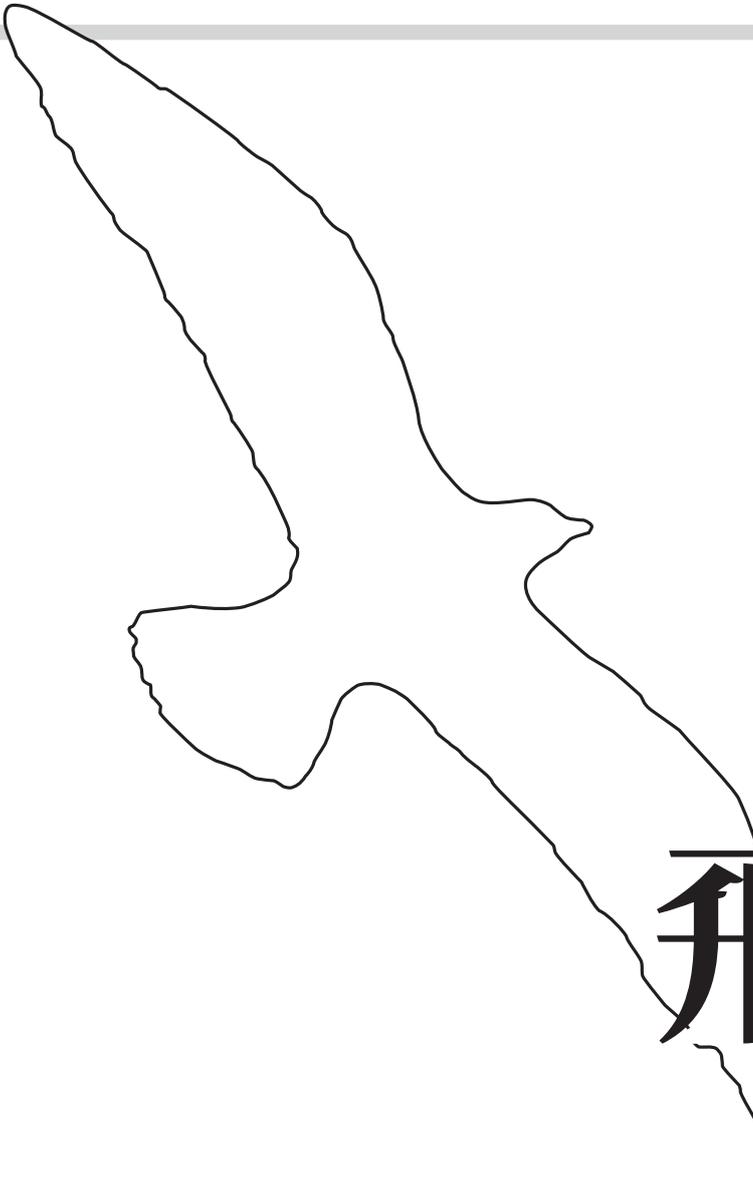




# 飛翔

2023  
年報 第26号



# 飛翔

2023

年報 第26号

# 飛 翔

「ゆたかな心、こまやかな関わり、最新の医療」の  
スローガンの下  
大空を翔ぶ鳥のように  
自由におおらかに  
この21世紀を力強く羽ばたいて

## ◆理念◆

- ①すべての人に差別のない目、ゆとりのある態度で接すること
- ②他者の立場にたった思いやりのある態度で接すること
- ③従来の自分たちの技能や実践に満足せず、常に検証と改善を心がけ、時代の要請に応じていくこと

## ◆基本方針◆

- ①丁寧な説明と意思決定のもとに医療と福祉を実践します
- ②安心、安全な医療福祉環境作りに積極的に取り組みます
- ③精神科救急を軸にした地域医療に積極的に取り組みます
- ④精神科リハビリテーションに積極的に取り組みます
- ⑤障害者の地域生活支援に積極的に取り組みます
- ⑥地域の医療機関、行政、福祉施設をはじめ、すべての社会資源との連携に積極的に取り組みます
- ⑦精神保健医療福祉についての啓発活動に積極的に取り組みます
- ⑧職員の研修と研鑽に積極的に取り組みます
- ⑨職員の健康維持と健康増進に積極的に取り組みます



理事長

平野 千晶

## 巻頭言

# ポストコロナの時代へ、 医療法人成精会は どのように展開していくのか

## ポストコロナの時代

本年5月8日（月）から、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染症法上の位置づけが、「2類相当」から「5類感染症」に変更されました。これにともなう、感染時の患者登録、健康観察等がなくなりました。また、陽性となった時の療養期間は発症翌日から5日間（推奨）となり、外出自粛は個人の判断となりました。同居家族の外出自粛も求められなくなりました。この変更によって社会全体のCOVID-19への緊張感が低下しました。かつての日常生活が戻ってきたように感じられます。

地域との共催で当法人が開催してきた「あったかハートまつり」も、第16回の今年は、3年ぶりに再開された昨年の「まつり」よりも開催時間が長くなりました。昨年は制限されていた会場での飲食も今年は解禁になり、パンデミック以前と同じ形式で開催することになりました。開催時期だけが、例年の6月上旬から今年は11月の開催に変更になっています。

このように社会全体が一息ついている状態ではあるものの、COVID-19の感染力は依然として強く、クラスター発生の危険は現在も続いています。医療法人成精会の私たちは、今後も緊張感を持って対応を続けていく所存でおります。

3年間を超えるパンデミックは、世界中を巻き込んで大きな変化をもたらしました。私は、時間や効率、経済的な価値について、社会の認識が変わってきているのではないかと考えています。オンラインやバーチャルリアリティ（仮想現実）、人工知能（AI）の技術が進んで一般化すればするほど、一見手間がかかっても人と人が直接会って同じ時間を過ごすことの意味、身体を使った活動の意義、同じ空気の中で一緒に働いたり、楽しんだりすることの価値が上がってきたと感じています。数値化できるような結果や成果だけでは他と差がつかなくなり、物事が立ち上がってきた背景やプロセス、共感できるかどうかの意味や価値を感じる時代がそこまできているような気がします。これは、自分の身近にいる弱者を他人とせず、地域の課題を自分事として捉える態度とつながっていると考えます。全ての人が社会の一員として取り込まれて、摩擦や孤立や貧困が起こらないこと、それを目指すのであれば私たちは本当に健康で安全で豊かにはなれないことに皆が気づいてきているのではないかと思います。あなたの隣の人が貧しくて病気だったら（コロナだっ

たら)、あなたの健康も経済的な安定も保証されないのです。病気や障害があっても安心して夢を持って暮らせる地域社会の実現が近づいてきていることを予感します。

## 法人内での新事業の展開と人材育成

令和4年7月4日に、「訪問看護ステーションH.E.J.碧南」を碧南市松江町に開設いたしました。これに伴って、これまであった「訪問看護ステーションH.E.J.」を「訪問看護ステーションH.E.J.刈谷」に名称変更して、両者の区別を明確にしました。8月1日には、刈谷市障害者支援センターの運営による「グループホームぬくぬく半城土」を開設し、精神科病院で長期在院されている方や在宅での生活が困難になってきている方への、地域での受け皿を整備いたしました。平成29年7月1日には、「メンタルクリニック アンセル」を開設しております。このクリニックでは、地域で働く人に対するメンタルの治療と復職リハビリテーションの機会を提供することで、本院である刈谷病院の外来との機能分化を図っております。このように、私たち医療法人成精会は精神科救急病棟を持つ刈谷病院を中心としながらも、地域のニーズに応じて様々な事業を展開して地域との結びつきを深めてまいります。そのためには、事業の展開に応じて各事業所間の横のつながりを重視し、法人全体の動きを視野に最適化を図っていくことが重要です。そのようなリーダーシップの取れる人材の育成が急務です。具体的には、リーダー育成を目的とした各事業所間の人材の異動を活発にしていきたいと考えております。さらには、当法人の職員が地域に出て様々な関係者と出会い、そこでの協働を通じて地域共生社会の実現に向けて活躍する機会を提供していきたいと考えております。ポストコロナの時代を視野に、法人内で横断的に活躍し、更には地域に向けて展開していける人材の層が厚くなっていくことを期待しております。

## ポストコロナにおける私たちの役割

医療法人成精会の私たちは、時代の変化を追い風ととらえて、地域の皆さまとの更なる連携に務めてまいります。地域との有機的で多様な連携を通じて新しい治療・支援の方法を模索し、病気や障害、ストレスに対する柔軟性（レジリエンス）を高めて地域の活性化を目指します。私たちは、これからも「地域に開かれた、地域と一体感のある精神科医療・福祉を展開する」ことで、病気や障害の有無に関わらずこの地域を「心から豊か」にし、ポストコロナ時代の地域社会の発展に貢献したいと考えております。

## 特集

当院の新型コロナウイルス感染症対策  
～3年間の取り組みを振り返って～



# 当院の新型コロナウイルス 感染症対策 ～3年間の取り組みを振り返って～

## 1. 始まり

2019年12月に中国の武漢市で最初に発生したと言われ、その後世界的に流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2020年1月に日本国内で初の感染者が報告された。ダイヤモンド・プリンセス号での新型コロナウイルス感染症に対する連日のメディア報道で、未知のウイルスに対して不安や恐怖を感じたのを今でもしっかりと記憶している。

## 2. 対策会議の開催

当院では2020年4月に病院管理者が中心になって臨時危機対策会議を開催した。後に会議名を新型コロナウイルス感染症対策会議（以下対策会議）とし、定期的に開催することになった。会議の参加メンバーは、理事長・院長・副院長・事務長・本部長・診療部長・内科診療部長・診療技術部長・事務部長・看護部長・看護部副部長・薬剤科長・医療社会事業科長・デイ・ケア科長・刈谷市障害者支援センター管理者・訪問看護ステーション H.E.J. 管理者・メンタルクリニック アンセル課長・感染担当看護部科長・検査科主任・感染担当看護部主任・感染担当クラーク（書記）で構成された。



新型コロナウイルス感染症対策会議

対策会議は、概ね週1回月曜日に、Zoomによるリモート会議で行った。会議の中で、県内や当院の近隣地域（衣浦東部圏域）の感染状況を報告し共有して、感染状況に合わせてフェーズを決めた。病院長を中心に参加者で対策を協議し、その中で外来・入院・デイ・ケア・作業療法、及び法人内施設における治療や活動などをフェーズに沿って検討した。対策会議の議事録は院内メールで全部署へ送信し対策などを職員に周知した。

## 3. さまざまな対策

対策会議で検討・立案した対策は、外来や入院、職員や職員家族への対応など多岐にわたり、法人全体で取り組んだ。

まず、県内や刈谷病院のある衣浦東部圏域、院内の感染状況を考慮して、新型コロナウイルスフェーズ表を

策定した。また、来院者や外来患者さんの出入り口を病院玄関の1カ所に制限し、当番制で全職員が協力して病院玄関に立ち、問診票の聞き取りと検温の実施、マスク着用、手指消毒などのご協力をお願いした。入院患者さんには、検温の実施、マスク着用、手指消毒、外出・外泊・面会の制限をお願いした。特に愛知県に緊急事態宣言が発出されている間、入院患者さんは短時間の院内売店への外出だけとなり、かなりの制限を長期間強いることとなった。



病院玄関まわり



職員が病院玄関に立って案内をする

ワクチン接種は、入院患者さんや外来通院されている患者さん、職員（委託業者も含む）・職員家族を対象に実施した。初期のワクチン接種は近隣のクリニックや調剤薬局の職員などにも対応し実施した。ワクチン接種の準備には、院内で医師・看護師・薬剤師・事務職員で構成されたワーキンググループを発足して、接種会場や接種日程、受付方法、問診担当医師、ワクチンの充填、接種施行者の選定、事務処理方法など、その都度参集して検討し対応にあたった。問診医師は診療部長より各医師に依頼した。ワクチンの手配は薬剤科が中心となり、ワクチンの充填や接種施行者は ICT 委員の看護師や安全衛生委員の看護師を中心に協力してもらった。事務処理は事務職員・本部職員・看護部クラーク・コメディカルスタッフなどに協力してもらった。会場の管理や接種者の体調管理などは看護部の管理者で行った。



コロナワクチン接種

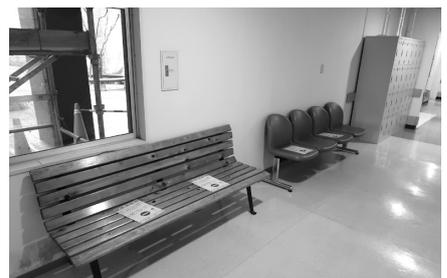
外来患者さんの接種では、当院を利用する方の病気の特性上、大規模接種会場や他の接種会場で受けることが難しい方もいた。特に発達障害で当院に通院されている方の中には、マスクを着用することもできない方や、ワクチン接種に抵抗を示す方も少なくなかった。そのような方々については事前に主治医から情報を得て、別室で対応したり、CVPPP チームに協力を依頼し、CVPPP トレーナーに待機してもらったりすることで、スムーズに接種することができた。対処に困っておられたご家族に大変感謝され喜ばれた。



コロナ感染症対策 外来の待合



コロナ感染症対策 食堂



コロナ感染症対策

その他、会議室の利用人数に制限を設けた。1テーブルに1名の利用として、会議室の出入口に最大利用人数を掲示した。職員の休憩室にも制限を設け、休憩室だけでなく、カンファレンス室や使用していない時間帯の診察室も休憩の場所として利用し、分散できるようにした。また大会議室も職員の休憩場所として開放した。職員食堂や入院患者さんの食事も、対面にならないようにテーブルの配置を工夫し、黙食のポスターを作成し掲示した。

職員の就労ガイドラインを策定し、感染状況や近隣の病院・施設の動向を考慮しながら随時改訂を行った。本部では抗原検査キットの販売を行い、院内の感染者が多い時期には抗原キットを全職員に配布した。感染休暇など福利厚生も整備し、感染した職員や濃厚接触者になった職員、また養育する子供が濃厚接触者になった場合にも感染休暇を付与した。

個人防護具についても、感染拡大初期はマスク不足やフェイスシールドも十分購入できない状態であった。刈谷市障害者支援センターに布マスクやフェイスシールドの作成を依頼することもあった。全職員へのアイシールドの装着や、二重マスクを導入するなど、試行錯誤しながら検討を重ねた。



コロナ感染症対策 会議室出入口



コロナ感染症対策 会議室の人数制限



コロナ感染症対策 職員ラウンジ



コロナ感染症対策 打合せデスク



コロナ感染症対策 病棟出入口

院内でのクラスター発生時の事業継続計画（BCP）を事務部長が中心となり策定して、2021年12月には実際にシミュレーションも行った。

## 4. 感染拡大

院内感染ゼロを維持していたが、2022年1月26日、初めて院内感染が確認された。発生病棟は長期入院患者さんが多く入院されている慢性期閉鎖病棟で、個室は少なく多人床の大部屋が多く、トイレや浴室は共有、食事もデイルームで集まって召し上がっていただく、いわゆる古くからある精神科に特徴的な病棟であったため、コロナ対策で三密を避け、換気を十分にするには大変難しさがあった。

対策本部を管理棟の大会議室に設営し、フェーズ5（感染拡大の指標）とし、BCPに則って濃厚接触者を抽出してPCR検査を実施した。結果は全員陰性であったが、1月28日、個室の患者さんが発症し病棟はレッドゾーンとなった。そして、2月1日には3名の職員の陽性が確認され、その後は毎日のように新たな感染者が発生した。陽性者の数が少ないうちは個室でコホートできたが、マスクをつけていただけなかったり、共有スペースで飲食をしたりということもあり、感染はどんどん広がっていった。

## 5. 病院一体となって

対策本部と病棟を Zoom でつなぎ、毎日リアルタイムに、感染者の状態・他の入院患者の状況・必要物品の確認・職員の状況など情報を共有し、感染者には新型コロナウイルス感染症治療薬の内服や点滴を実施するなど早期から治療を行うことができた。

病院全体で対応にあたり、多職種で支援を実施した。栄養管理科は患者さんに間食や水分補給用のお茶・コーヒーや弁当を、看護部からは応援チームの介入とごみ捨てや物資搬入、そして温かい清拭用の消毒のタオルを、事務部や施設課は外部業者との連携、医療社会事業科や作業療法科はご家族との頻回な連絡担当、臨床心理科はメンタルクライシスとケアについて考えた。また、



新型コロナウイルス感染症対策本部会議

た、薬剤科は重傷者を出さないよう薬剤情報をリアルタイムに発信し、法人本部は迅速に物資を調達し、適宜ホームページに感染情報をアップした。そして、通常業務の時もそうであるが、クラスター発生時も検査科がいつ何時も多くのコロナ関連検査を率先して実施した。ちなみに、検査科では、2021年2月に核酸検出検査機器（スマートジーン）を導入した。2022年2月には新たな検査機器（ID NOW）を導入し抗原検査も併用し、2021年度には700件以上の検査、2022年度は1400件以上の検査を実施することができた。

また、レッドゾーンで勤務する看護職員には病院中から差し入れや応援メッセージが届けられ、刈谷病院がまさに一体となって対応した日々であった。

このクラスターは、32日間にわたったが、レッドゾーン対応によって重症者を出さずに収束できた。院長や医師がイニシアティブをとり、対策本部が発信した早期の対応と、該当病棟の職員及び全職員がそれぞれの立場で考え活動したチーム力と、不安な気持ちを持ちながらも病院の指示に従っていただいた入院患者さんのご協力があってこそその収束だと感謝した。そして、衣浦東部感染会議で関係のあった施設の感染管理認定看護師には早期から介入していただき、現場の動線を考えたゾーニングの指導など感染対策に脆弱な私たちにとって大きな支えとなった。

## 6. その後

以降、2023年2月までに6回のクラスター発生があった（入院患者さん：のべ48名 職員：のべ26名）。その際も対策本部を立ち上げ、対策や対応を協議し、早期に治療を行った。

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症分類が5類に移行され、感染症対策の緩和が検討された。今後も感染状況を鑑み、その時々状況に応じた感染対策に取り組んでいきたい。

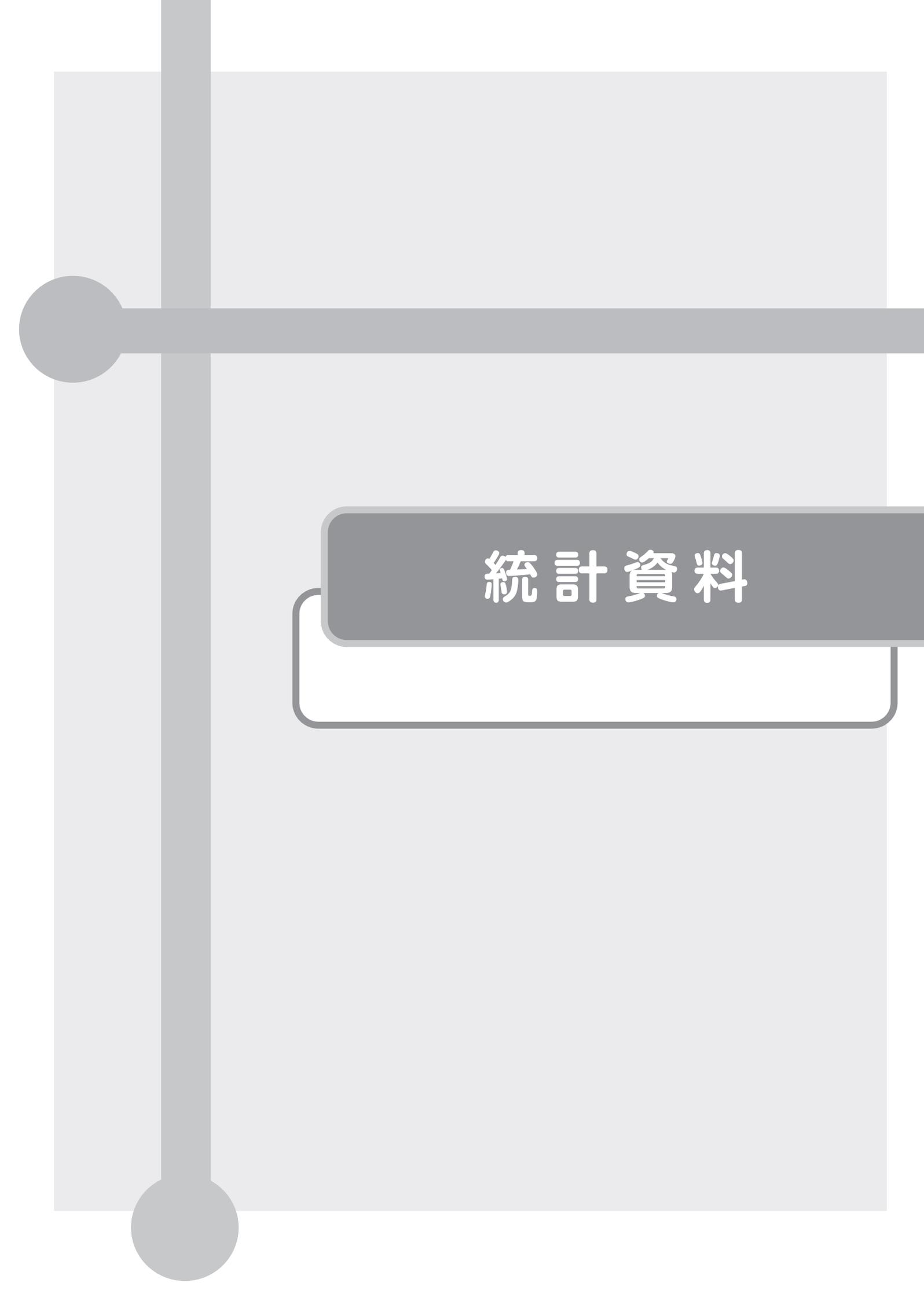


クラスター発生病棟 立入禁止  
(病棟のゴミを他の病棟職員が廃棄する)



病棟クラスター発生時の  
防護対策（フル PPE）





# 統計資料

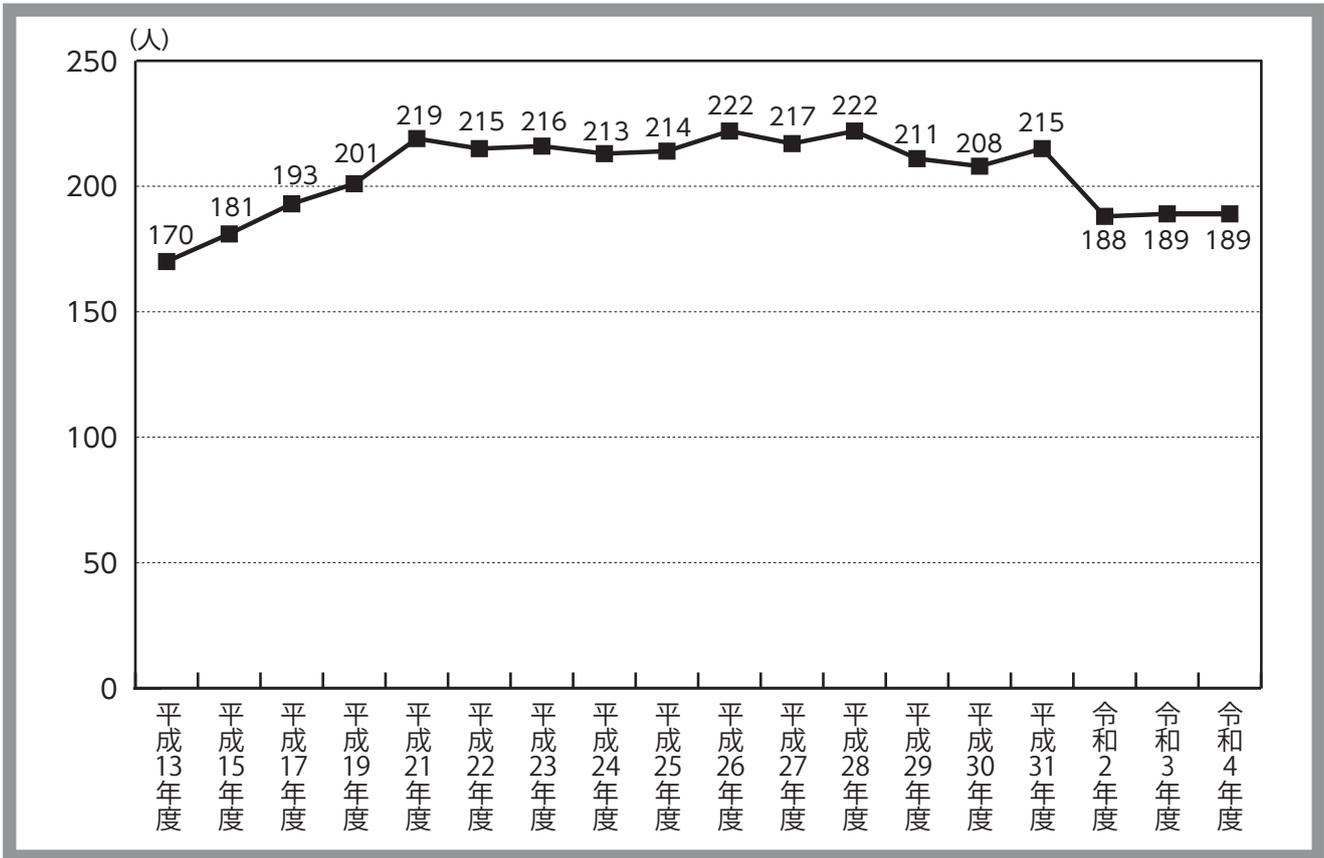
# 統計資料

## ◆ 職種別 職員数

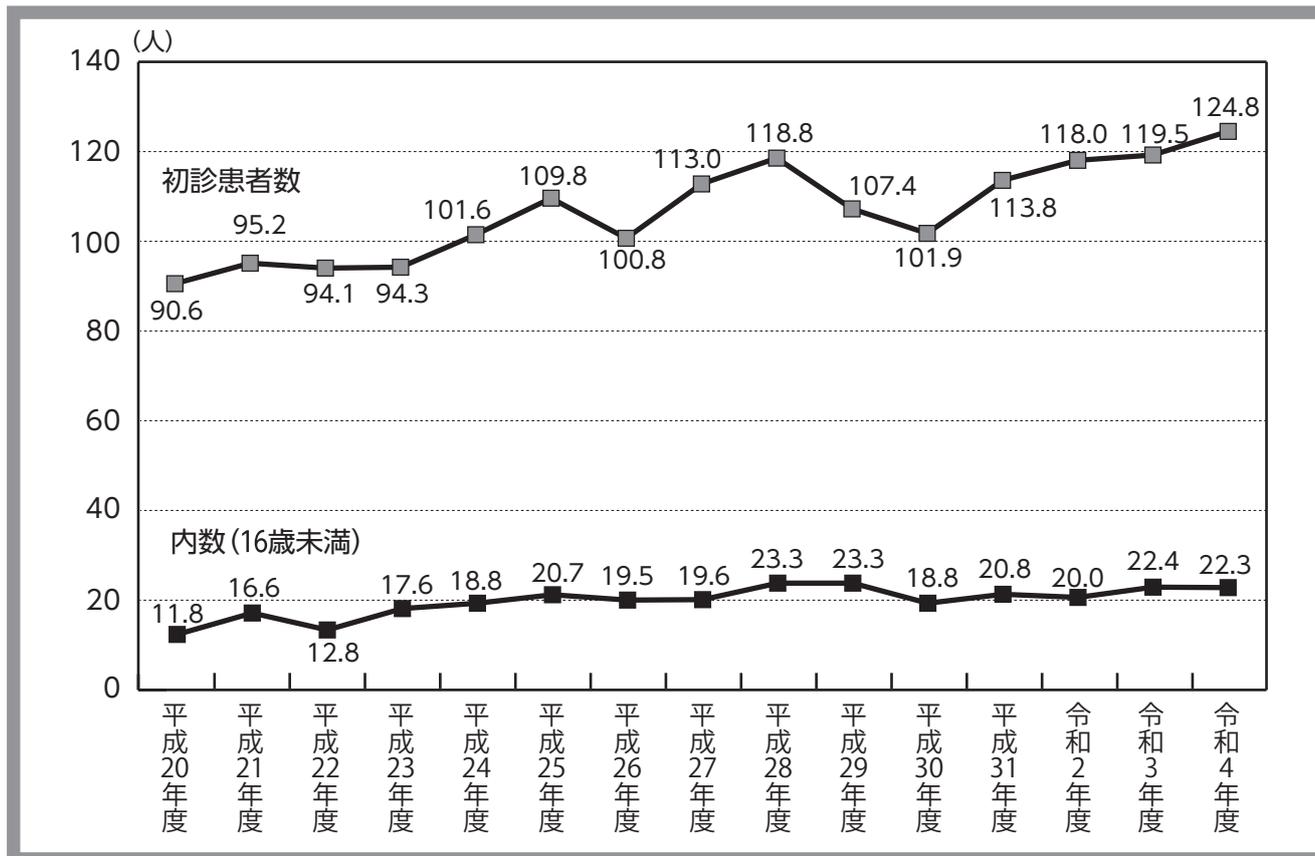
職種	年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
医師		17	15	15	18	21	21	24	30	27	28	27	28	28	26	25
薬剤師		3	3	3	3	3	3	4	4	5	4	4	4	4	3	4
看護師		63	65	65	69	72	72	73	73	82	89	90	93	93	95	101
准看護師		36	32	31	32	31	30	30	27	23	21	19	18	15	12	10
看護補助者		25	31	30	34	27	25	25	34	28	22	21	22	22	19	17
管理栄養士		1	1	2	3	3	3	2	2	3	3	2	3	3	3	3
栄養士		2	2	1	0	0	0	0	0	0		0	0	1	1	1
精神保健福祉士		9	9	11	18	18	19	19	21	23	25	25	26	23	23	20
臨床心理士		5	5	5	6	5	5	7	10	6	9	11	12	10	11	10
作業療法士		9	9	9	13	13	11	12	11	10	12	13	15	15	14	15
臨床検査技師		1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
放射線技師						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
事務職員		15	15	16	19	22	22	22	22	22	22	22	22	22	23	23
その他		7	6	6	13	10	9	7	9	10	9	7	9	9	8	11
合計		193	194	195	229	227	222	227	245	242	247	244	255	248	241	244

(各年3月31日現在)

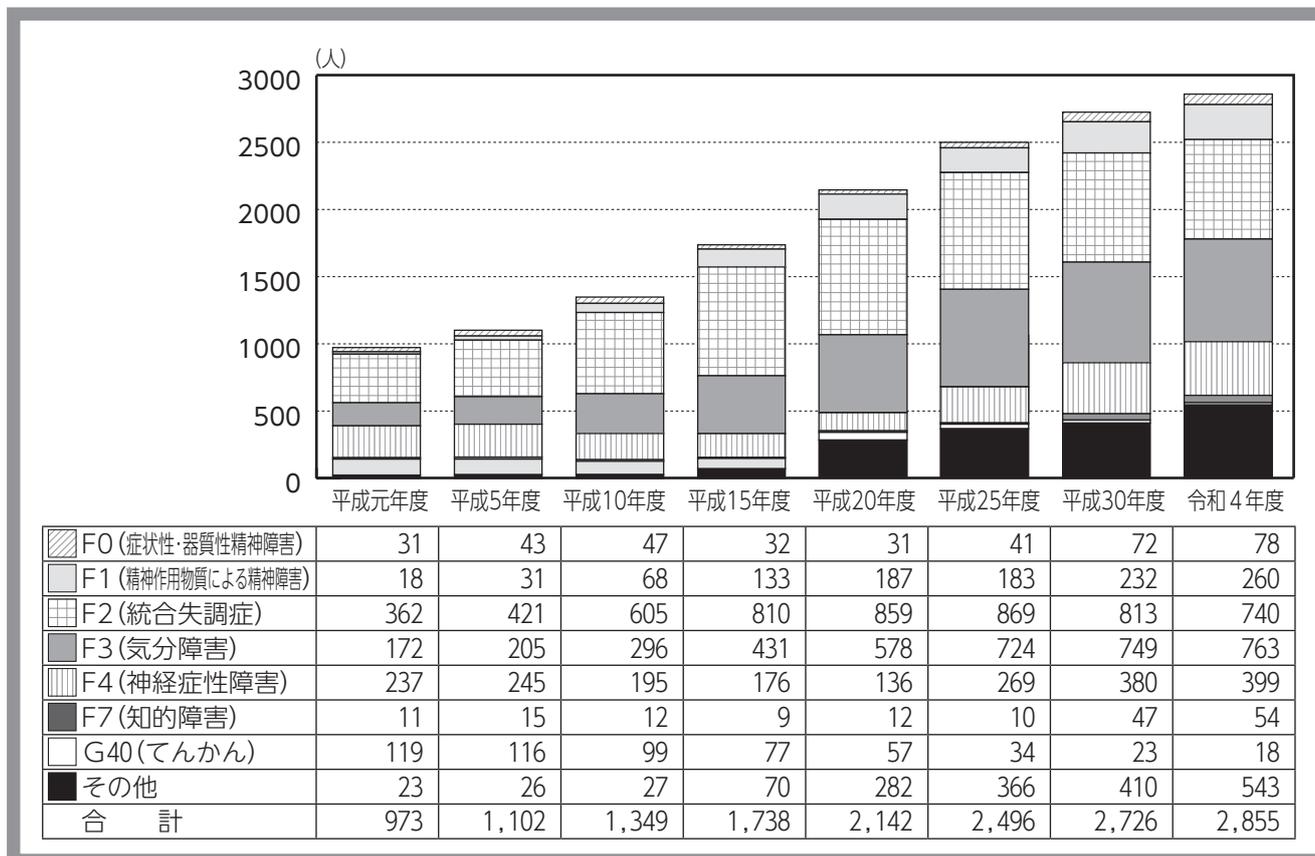
## ◆ 年度別 一日平均外来患者数



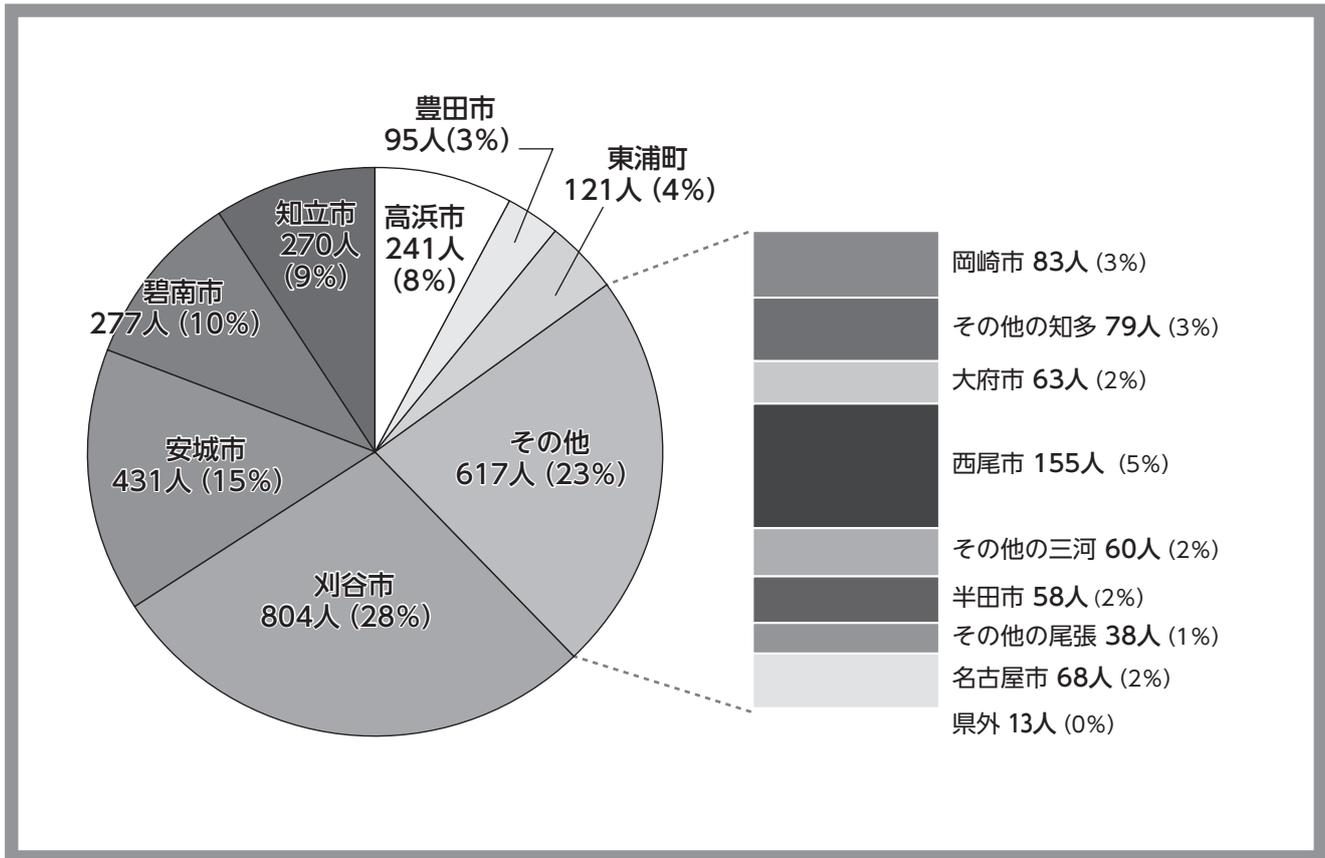
◆ 年度別 月平均初診患者数と16歳未満患者数



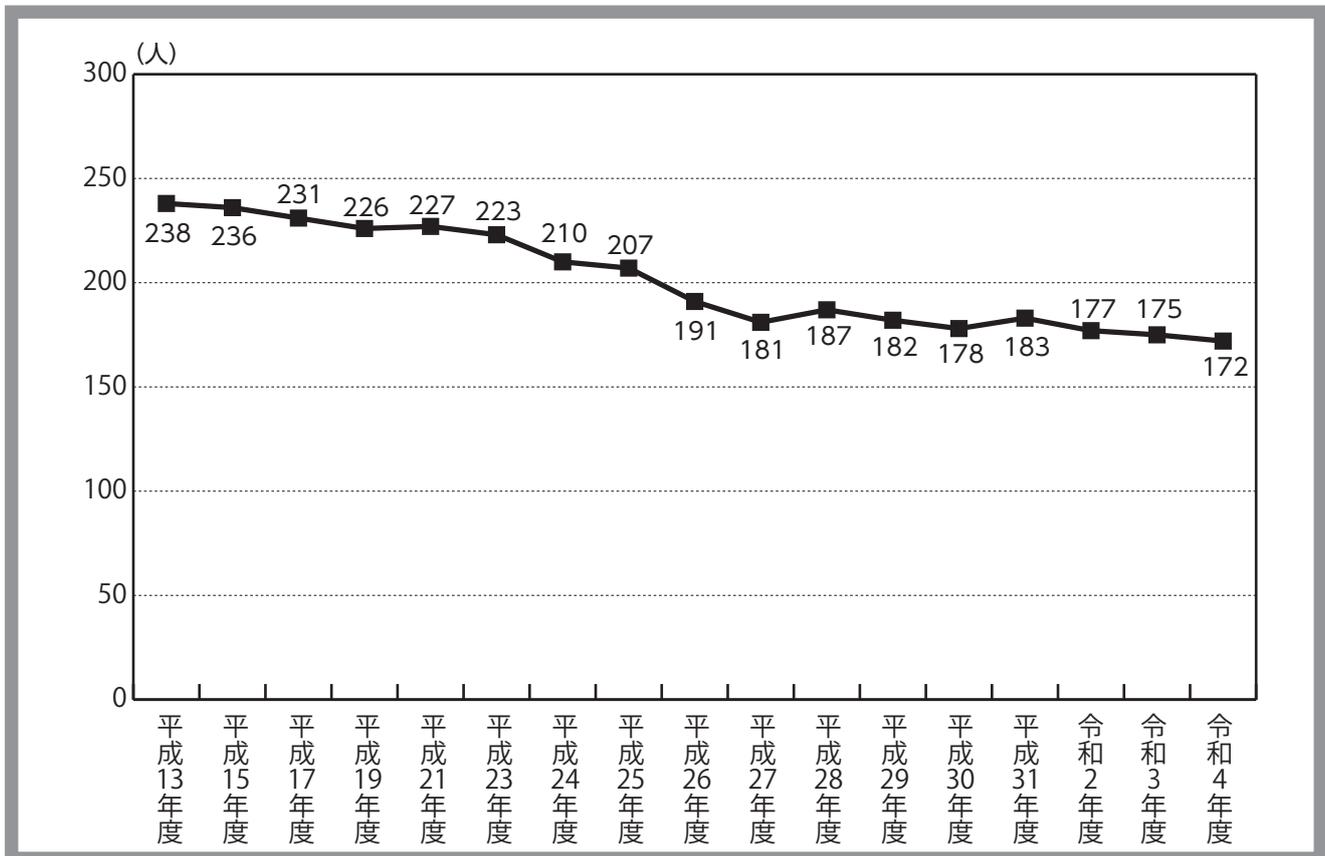
◆ 年度別 病名別月平均外来患者数



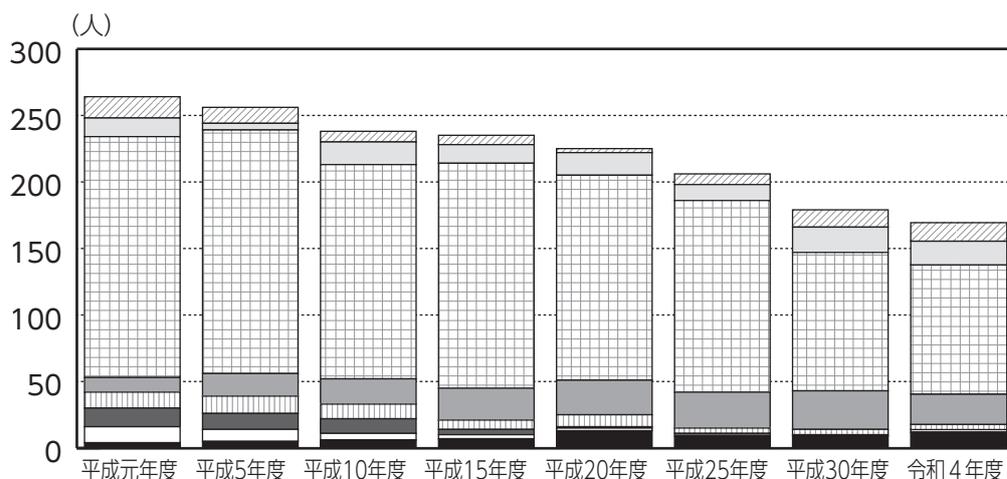
◆ 令和4年度 地域別外来患者分布



◆ 年度別 一日平均入院患者数

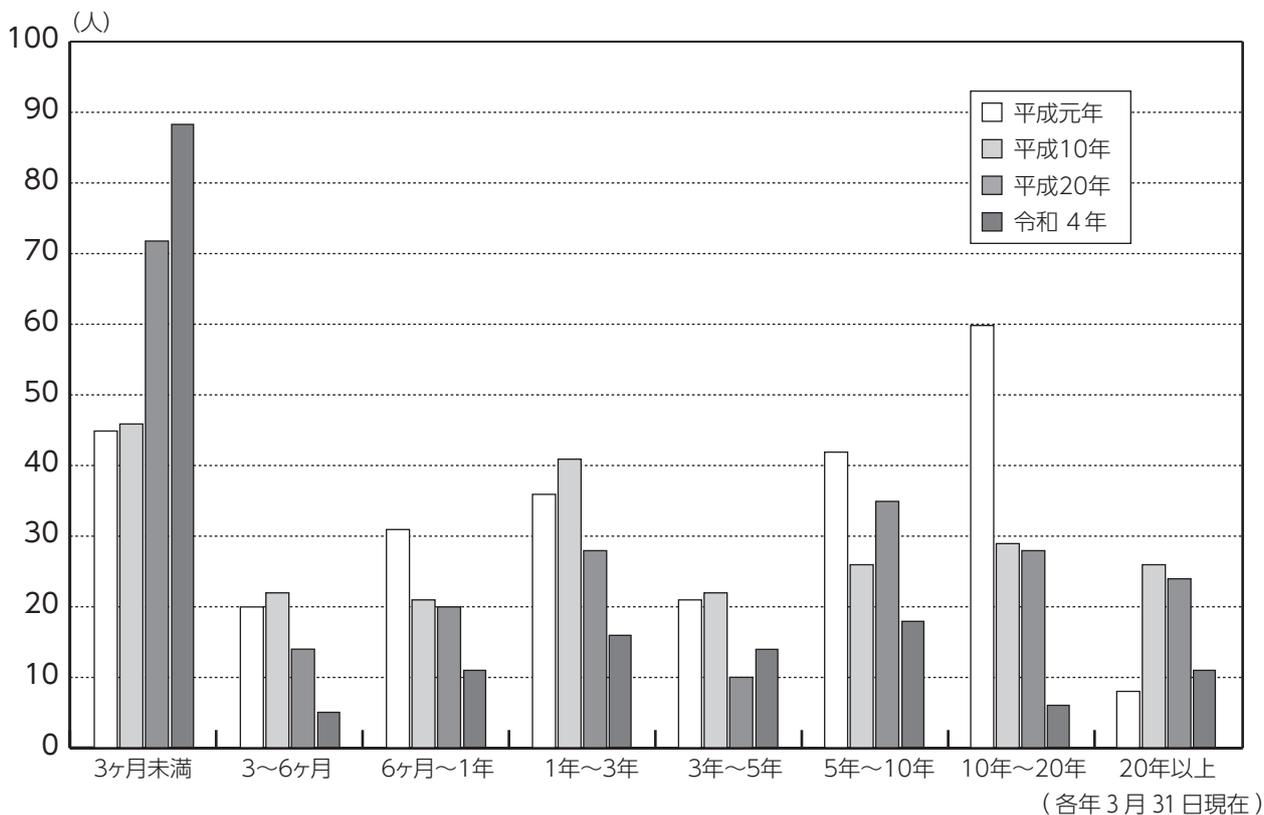


◆ 年度別 病名別一日平均入院患者数



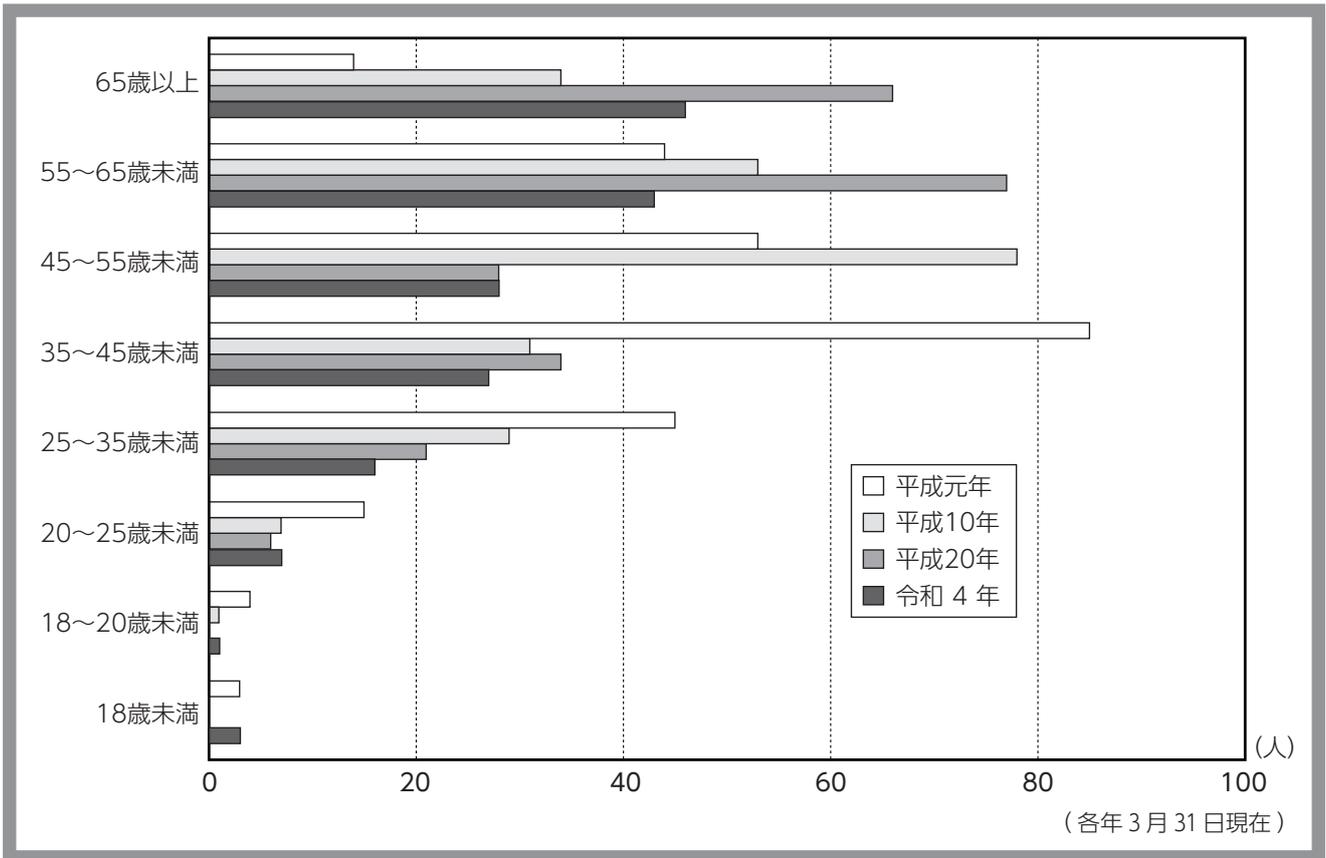
▨ F0 (症状性・器質性精神障害)	16	12	8	7	3	8	13	14
▨ F1 (精神作用物質による精神障害)	14	5	17	14	17	12	19	18
▨ F2 (統合失調症)	181	183	161	169	154	144	104	98
▨ F3 (気分障害)	11	17	19	24	26	27	29	23
▨ F4 (神経症性障害)	12	13	11	7	9	4	4	4
■ F7 (知的障害)	14	12	11	4	1	2	1	2
□ G40 (てんかん)	12	9	5	3	2	0	0	0
■ その他	4	5	6	7	13	9	9	12
合 計	264	256	238	235	225	206	179	171

◆ 入院期間別 患者数

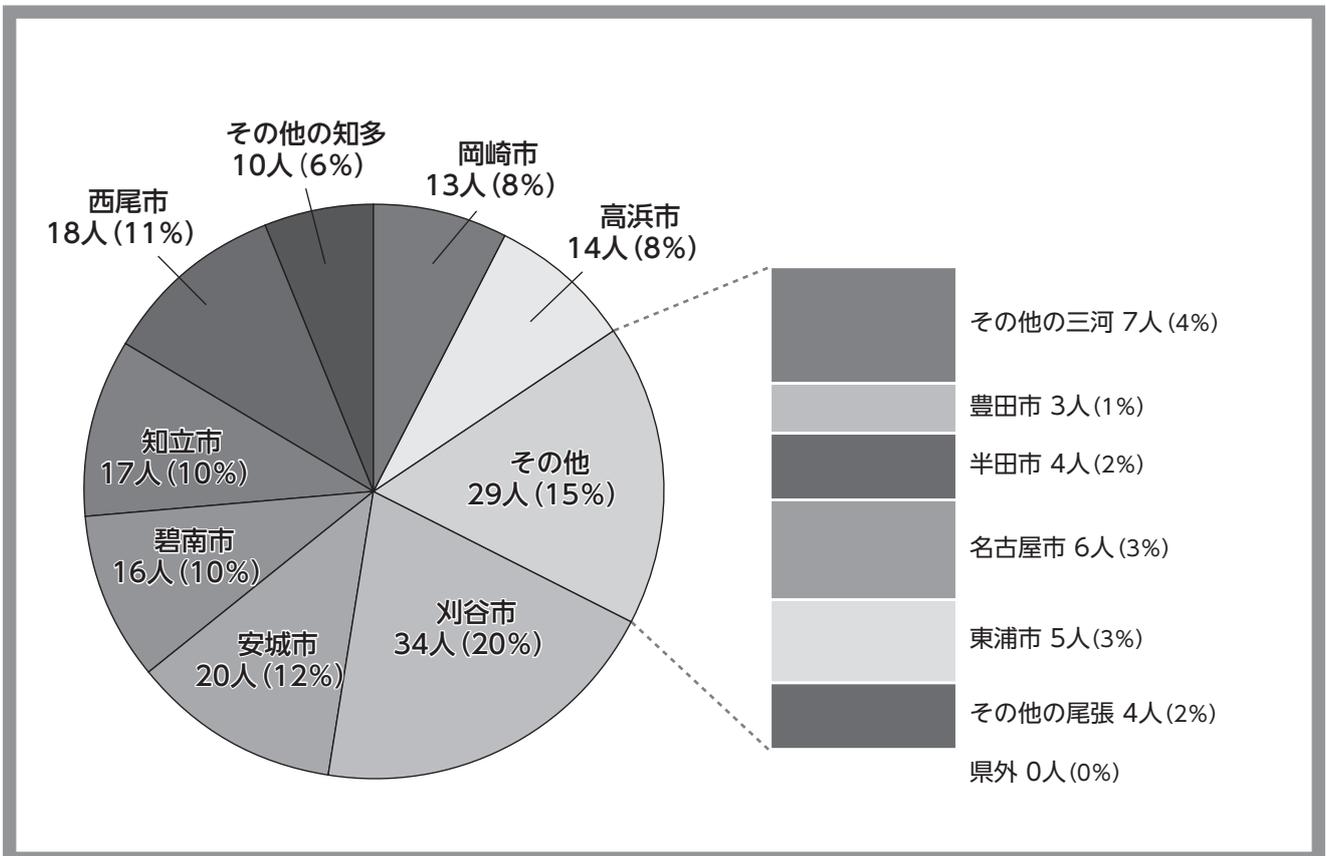


(各年 3月 31日現在)

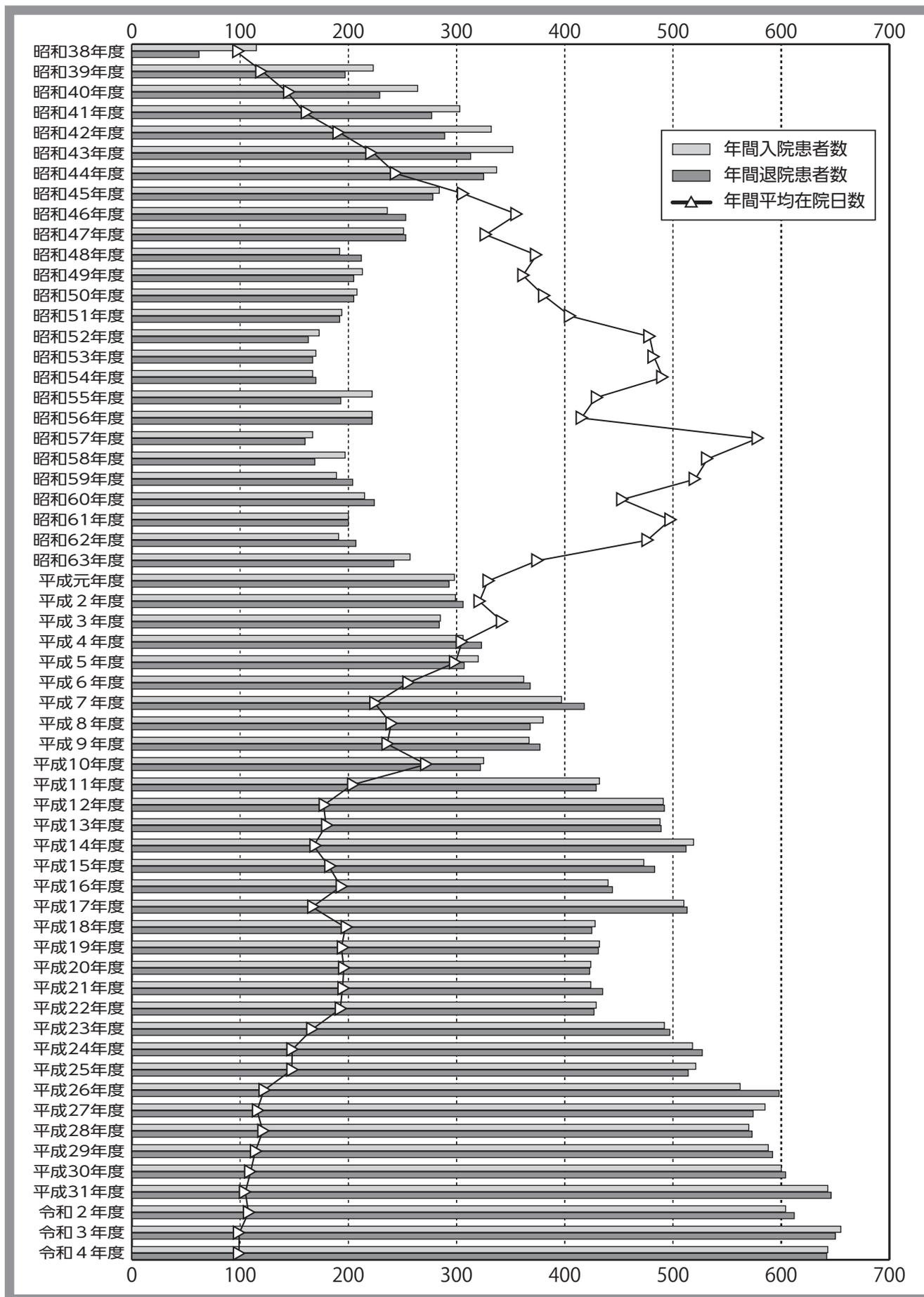
◆ 年代別 入院患者数



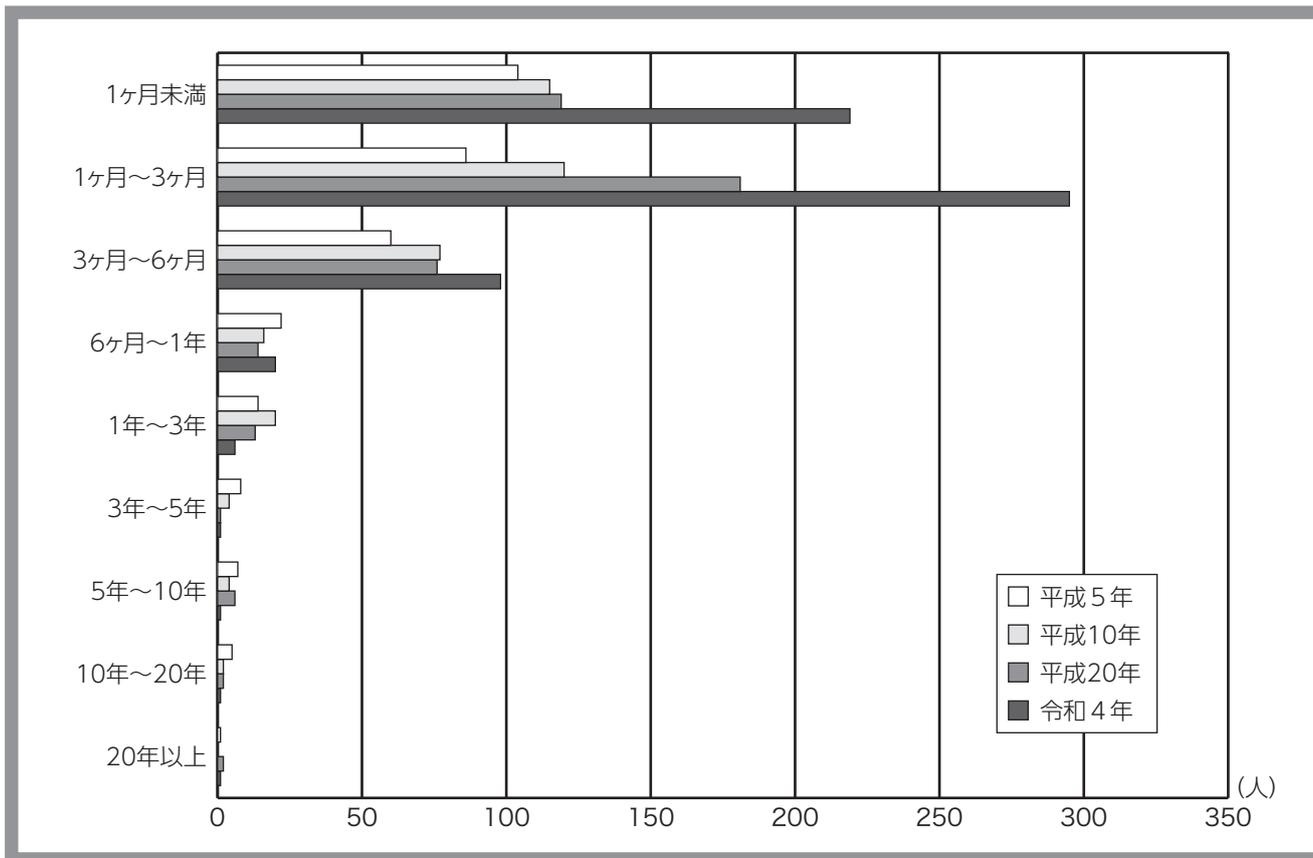
◆ 令和4年度 地域別入院患者分布



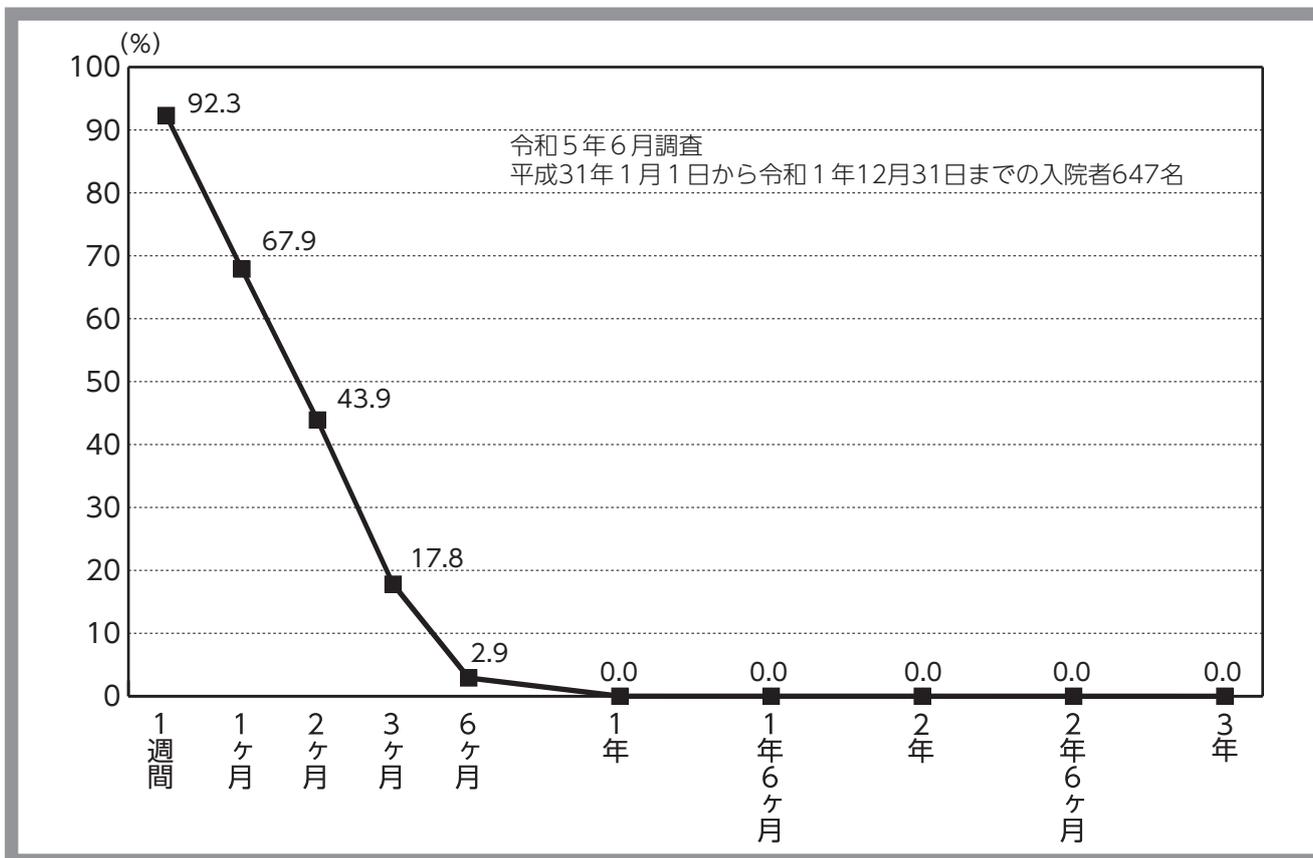
◆ 年間入院および退院患者数と平均在院日数



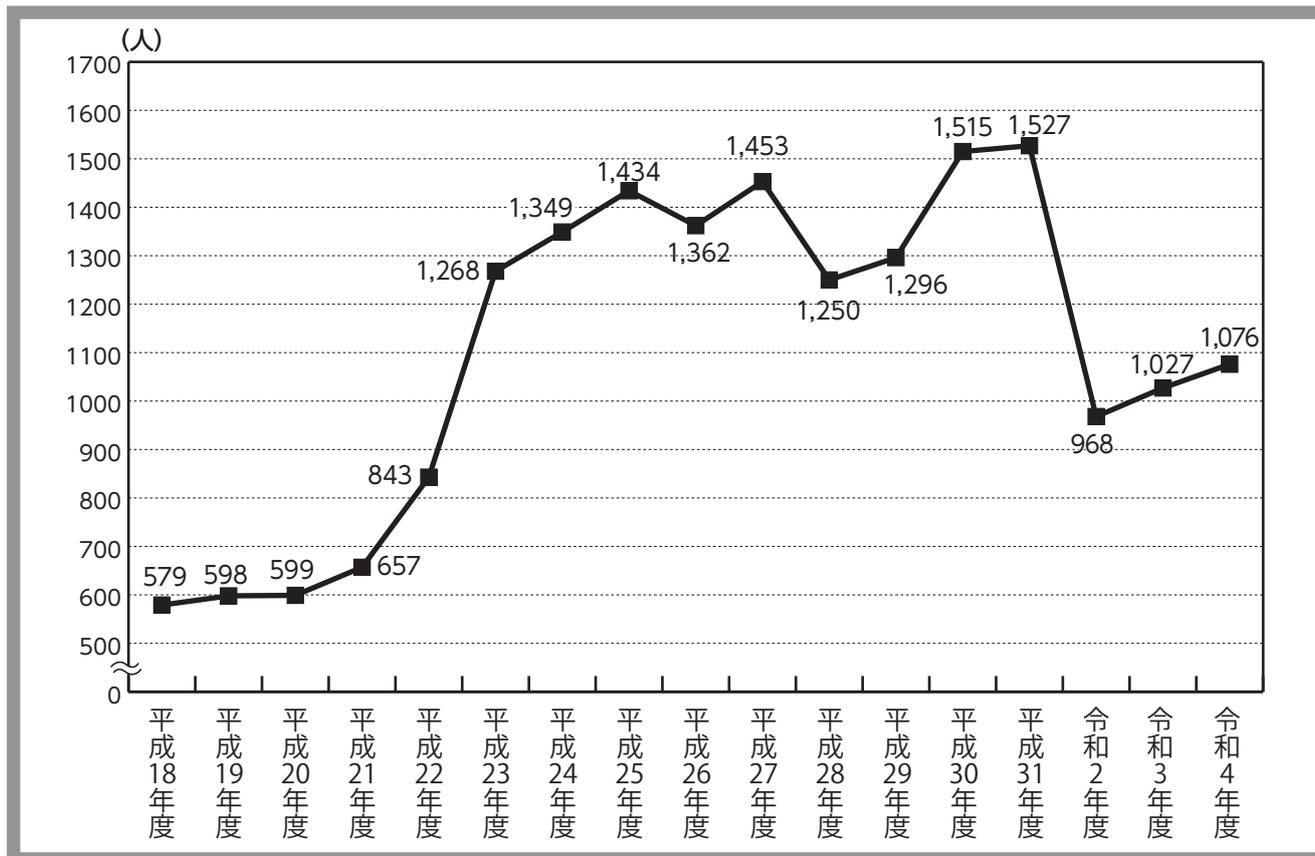
◆ 退院者入院期間



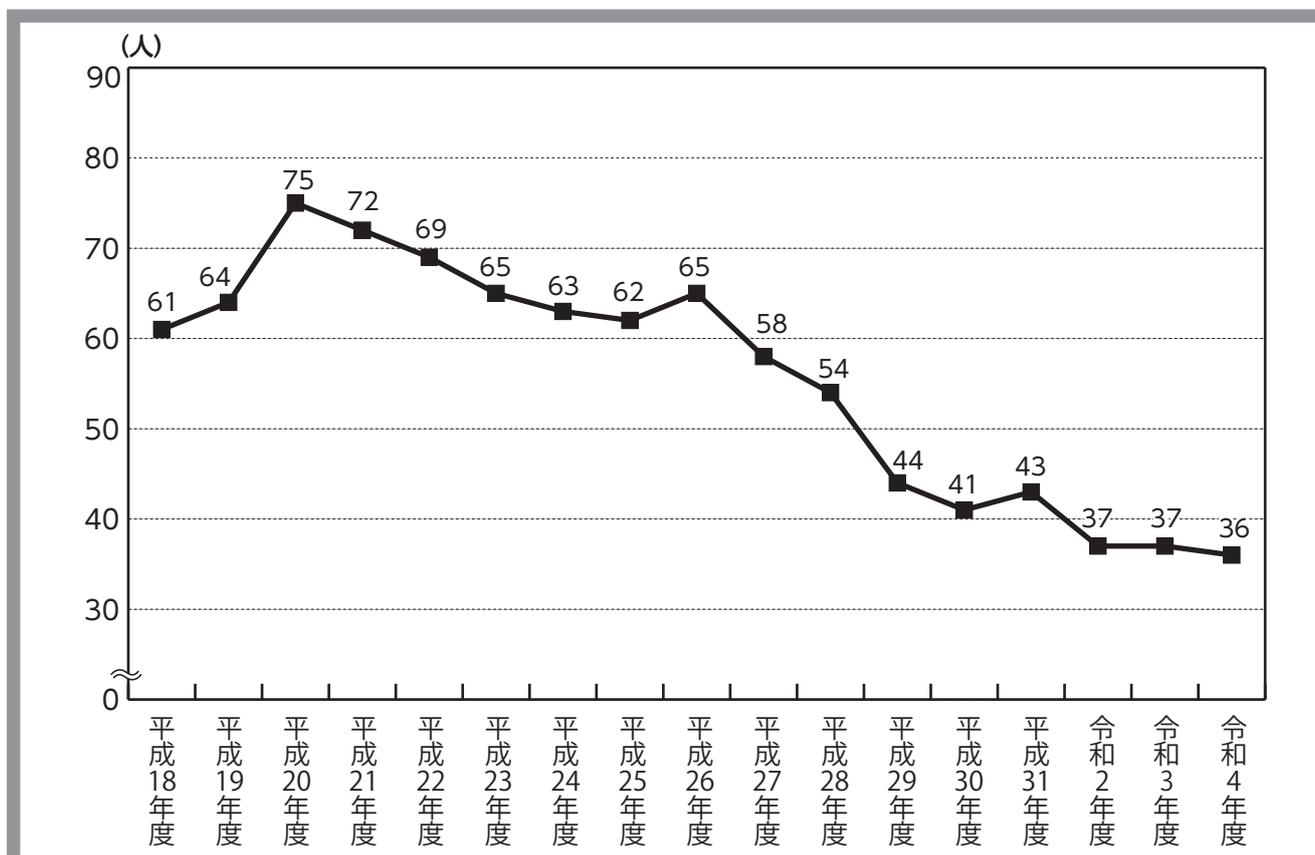
◆ 残留率



◆ 年度別 月平均作業療法出席者数



◆ 年度別 一日平均デイケア出席者数



◆ 年度別 月平均訪問看護実施件数（訪問看護ステーションH.E.J.）

